

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 37 号】

月本たくやレポート編集部

〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL : 044-986-6010 FAX : 044-330-1563 Email : mail@tsukimoto.info



小さな政府と大きな市民社会を目指して

～ボランティア活性化と公平なサービスで未来をつくる～

人口150万人を超え、成長を続ける川崎市ですが、少子高齢化の流れにより、数年で人口のピークを迎え、我が国の他の自治体同様に人口減少に転じます。これまで川崎市も行政改革により、小さな政府・行政のスリム化を進めています。小さな政府の両輪となる大きな市民社会の構築に向けては、役所ではなく市民の活動が活発になることで、この大きな一翼を担うのがボランティアです。ボランティアと言っても、負担が重かったり、面倒くさかったりというイメージを持たれるケースも多く、**それぞれの市民がそれぞれのできる範囲で続けられるもの**が望ましく、その体制整備を進めて行くことが重要です。

✓ボランティアの力を発揮するために

ボランティアには、完全無償のボランティアから、活動費・報奨金・補助金・謝礼と言った形で一部有償の活動しているものもあります。

例えば、**公園や街路樹等の愛護会等**は、落ち葉やごみを拾うためのゴミ袋や用具を買うための費用への充当も含まれる報奨金があり、**ふれあい子育てサポート事業**は利用会員からヘルパー会員への謝礼、民生委員・児童委員は少額ですが一部活動費の補助があります。しかし、有償と言え、報酬と言えものというより寧ろ活動費の一部補填の要素が強く、これらのボランティア活動は、新しい人材確保を課題としています。

✓大変なボランティアの一つ民生委員

民生委員・児童委員は昨年12月に一斉改選が行われ、3年の任期が始まりました。しかし、人口が増加している川崎市は定数が増えてしまったため、充足率は低下し、委員が欠けている地域は、近隣地区の委員がカバーするスタイルになっています。千葉市、相模原市、新潟市等では、**民生委員協力員制度**があり、民生委員の活動自体をサポートする協力員制度があります。しかし、川崎市や中原区の一部の地区の社会福祉協議会で、民生委員の付随する活動の支援が可能になる**福祉協力員制度**があるものの、全市的に広がっておらず、個人情報等の取り扱いに関係するような民生委員の活動自体をサポートする制度ではありません。

今回の議会では民生委員の活動をサポートする体制を整え、民生委員一人一人の負担を軽減することで、できる人が少しずつ地域のために活動できるルール作りと、福祉協力員の全市展開を求めました。

✓ボランティアポイント制度

昨年11月に行われた、麻生区選出市議会議員と語り合う会で、参加した学生さんからボランティアポイント制度の提案がありました。例えば、お隣の稲城市では介護ボランティアのポイントを介護保険料に変えられるという制度があります。また、他の自治体ではボランティアポイントを公共施設の使用料に使えるということがあります。ボランティアのそもそもの奉仕活動という意義を逸脱しない範囲で、活動の促進や健康増進につながるような取り組みとして、市で検討している有償ボランティアの一つの手法として検討すべきです。

✓コミュニティ交通の活性化と外出支援の適正化

川崎市内のコミュニティ交通は、麻生区高石地区の山ゆり号、多摩区長尾台地区のあじさい号の2地区で本格運行が行われています。また、麻生区岡上地区では、昨年12月から今年の3月まで、乗合タクシーの二回目の運行実験を実施しています。

岡上西地区は、道路が狭く、山坂の多い地域で、最寄りの鶴川駅から2km以上離れている地域もあり、高齢化が進んでいます。

コミュニティ交通が検討され、一昨年、乗合タクシーという形で一回目の運行実験が行われました。

ここで実験されている乗合タクシーは、駅を利用する拠点と岡上西地区を結ぶもので、岡上西地区のいくつかある乗り場から乗車もしくは降車するものです。事前予約制で、この実験では、タクシーの配車の都合上、前日予約の形になっています。

この実験から本格運行にするためには、どうしても事業採算が取れなければいけません。

その際に1便あたり、2.5名の乗車が必要になり、前日予約の課題がある中で、どのように促進するかということで、今回の実験が始まります。

一つは、**高齢者の運賃割引**を前は400円の乗車運賃から100円引きから、今回は**200円引き**に試行します。二つ目に、岡上西地区の坂の下の乗り場だけでなく、**坂の上でも4カ所に乗り場を設置**することで、利用しやすくするという工夫をします。さらに、三つ目に、運賃は高くなりますが、鶴川駅付近のポイントも人道橋前だけでなく、**鶴川駅前広場（西口）での乗降も可能**にするということで、前回の実験をもとに利便性を高める工夫を行い、実験が実施されています。

ここで注目なのは、**高齢者の運賃割引**です。高齢者外出支援制度では、税別100円のワンコイン乗車と月額1000円のフリーパスが選べます。この制度は、バスでの利用料金での適用で、コミュニティ交通では、100円引きになっています。高齢者外出支援なのに、バス利用者は100円で乗れて（フリーパスなら1乗車あたり、もっと安くなる）、コミュニティ交通の人はケースによっては300円になっているのが実情で、高齢者外出時の利用者負担は公平になっていないというのが実情です。このような背景も踏まえ、今回は300円ではなく200円の負担で乗客が増えるかを実験しています。

逆に**大阪府堺市**では、フリーパスはなく、**バスも乗合タクシーもすべて1乗車100円に統一**しています。川崎市の高齢者外出支援の利用者アンケートでも、1乗車あたり100円の運賃負担は、利用者目線でも概ね適正という結果が出ています。

川崎市の高齢者外出支援事業は、かつては無料パスでしたが、平成16年より、1乗車100円と月額1000円のフリーパスの選択制に変わり、16億円ほどの財政効果がありました。高齢者の1乗車あたりの負担の公平性から考えると、**公共交通とコミュニティ交通で格差が生じているということは課題**です。

特に市バスは生活路線の維持を名目に赤字でも税金を投入して走らせる路線もありますが、コミュニティ交通は採算が取れないと運行できません。そもそも公共交通での採算がとれない場所に走らせるのがコミュニティ交通ゆえに、高齢者外出支援の公平に取り扱うことで、乗客数の増加が期待されます。

このように、コミュニティ交通へ的高齢者外出支援を増やして、ただただ税負担を増やすのではなく、公平性と受益と負担のあり方を踏まえ、高齢者の交通全般について、負担の適正化と路線の継続性や予測を改めて考えていくべきと思います。

月本たくやプロフィール

昭和53年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成23年川崎市議会議員初当選。交渉会派団長、議会運営委員会委員、川崎市農業委員（議会推薦）等を経て、平成25年5月より無所属。平成27年川崎市議会議員当選。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出、当選2回） まちづくり委員会委員 神奈川県クッパ協会代表理事

NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長 川崎白百合ライオンズクラブ会長

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 麻生区白鳥在住 五力田町内会員 家族：妻（会社員） 血液型：A型

趣味：KUBB（スウェーデン発祥のスポーツ、神奈川県クッパ協会代表理事、日本クッパ協会認定普及指導員）

月本たくや事務所

麻生区白鳥 2-3-2 Kコーポ白鳥 103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

